

平成9、10年度コロキウム発表要旨

平成9年度第4回3月4日

演題：コミュニティスポーツのこれからの方向 ―地域スポーツクラブの研究から―

演者：中島 豊雄

〈はじめに〉

地域スポーツクラブの研究に着手したのは、まだスポーツクラブが地域に急増する以前の昭和40年代の初頭で、当時の関心は、地域にスポーツクラブをつくり、存続させるためには、どのような社会的条件が必要であるのかといったことであった。現在では、地域にスポーツクラブは多く育っており、クラブを数多くつくるといった量的な問題よりも、むしろどのようなスポーツクラブを目指すのかといった質的な面に移っている。すなわち、質的な問題を解決しないかぎり、今後はクラブの数も増えない状況にある。以下、これまでのスポーツクラブに関する研究結果から得られた知見に基づいて、コミュニティスポーツの方向を考えてみたい。

〈調査結果〉

(1) 地域スポーツ集団の社会学的研究―軟式野球チームの存続と崩壊―

昭和40年頃は、スポーツクラブの殆どが職場のクラブで、例外的に軟式野球だけは地域を母体につくられていた。本研究は、軟式野球クラブの結成、存続、崩壊に及ぼす社会的要因を明らかにするために行ったもので、その結果、存続の必須条件として、①集団的基盤、②強力なリーダー、③施設、④適合した組織・大会が見出された。コミュニティスポーツの観点からこの結果をみると、ある一定の範囲に、ある一定数以上のそのスポーツの愛好者が存在すること(集団的基盤)がクラブの結成と存続に重要な条件であることが示唆された。

(2) 地域スポーツ集団の存続と変容―津市婦人バレーボールクラブの事例―

本研究では、クラブは存続することによって、どう変容していくかを集団の内部的条件に視点をおいて分析した。コミュニティスポーツの観点からこの結果をみると、一つはスポーツクラブは存続することで、勝利志向に傾斜し、閉鎖的になること、他の一つはクラブが単に長く生きながらえるだけでは社会的活動への参加が促進されたり、スポーツ問題を社会的次元で考えるようにメンバーの態度を変容させるといった、いわゆるコミュニティスポーツの理念の実現には結びつかないなどの知見が得られた。

(3) 地域社会におけるスポーツクラブの社会的機能

―コミュニティ活動とコミュニティ意識を中心として―

スポーツクラブが地域に数多く生まれ、活発な活動をするようになると、地域社会の一つの社会集団として大きな力を持ち始める。その一方で地域からの孤立化、文化クラブや社会集団からの遊離、建前ではスポーツによるコミュニティづくりを強張するが、実際はコミュニティ形成に役立っていないのではないかと、いった問題が顕在化してきた。そこで、スポーツクラブがコミュニティ形成にどうかかわっているかを検討した結果、地域スポーツクラブへの参加は、クラブ員のコミュニティ活動を促進し、コミュニティ意識にも肯定的に作用し、特に居住地の近い人たちによって構成されたスポーツクラブには、その傾向が強いことが明らかにされた。

〈むすび〉

これからのコミュニティスポーツの発展には、地域スポーツクラブがその中核を担うであろう。その場合、二つのことが大切である。一つは、地域に根差し、地域に開かれたスポーツクラブであること。二つ目は、ゆりかごから墓場まで、ライフステージに応じられるスポーツクラブをどう構築するかということ。文部省は平成7年から総合型地域スポーツクラブの育成事業に着手した。一方、Jリーグが「クラブスポーツ」の理念を掲げ、地域を重視したクラブづくりを指向し、新しいスポーツ文化の創造を目指している。人々が生涯にわたってスポーツと付き合っていくには、地域で継続的にスポーツができる環境が整備されていることが不可欠であり、その重要な方策が地域を母体としたスポーツクラブの育成であることはいうまでもない。この成功なくしてコミュニティスポーツの真の発展はあり得ないといっても過言ではない。